

高取の考古学



与楽罐子塚古墳



向山 1 号墳出土銅鏡



薩摩遺跡出土古式土師器

トピックス 鏡型土製品

薩摩遺跡の土壌から出土した、直径 2.9 cm、高さ 0.8 cm、重さ 7 g を測る円盤状の土製品です。鏡を模したと考えられ、丁寧につくられ赤色顔料が塗布されています。土壌は弥生時代後期の時期と考えられ、鏡型土製品の出土例は少なく大変貴重です。



鏡面



鏡背

目 次

高取町と周辺の遺跡	1
大壁建物	2
オンドル	3
高取町の弥生時代	4
薩摩遺跡の竪穴建物と土壌	5
高取町の前期古墳と出土遺物	6
観覚寺鳥ヶ峰1号墳	7
藤井イノヲク16号墳	8
与楽カンジョ古墳	9
与楽罐子塚古墳	10
寺崎白壁塚古墳	11
国指定史跡 市尾墓山古墳	12

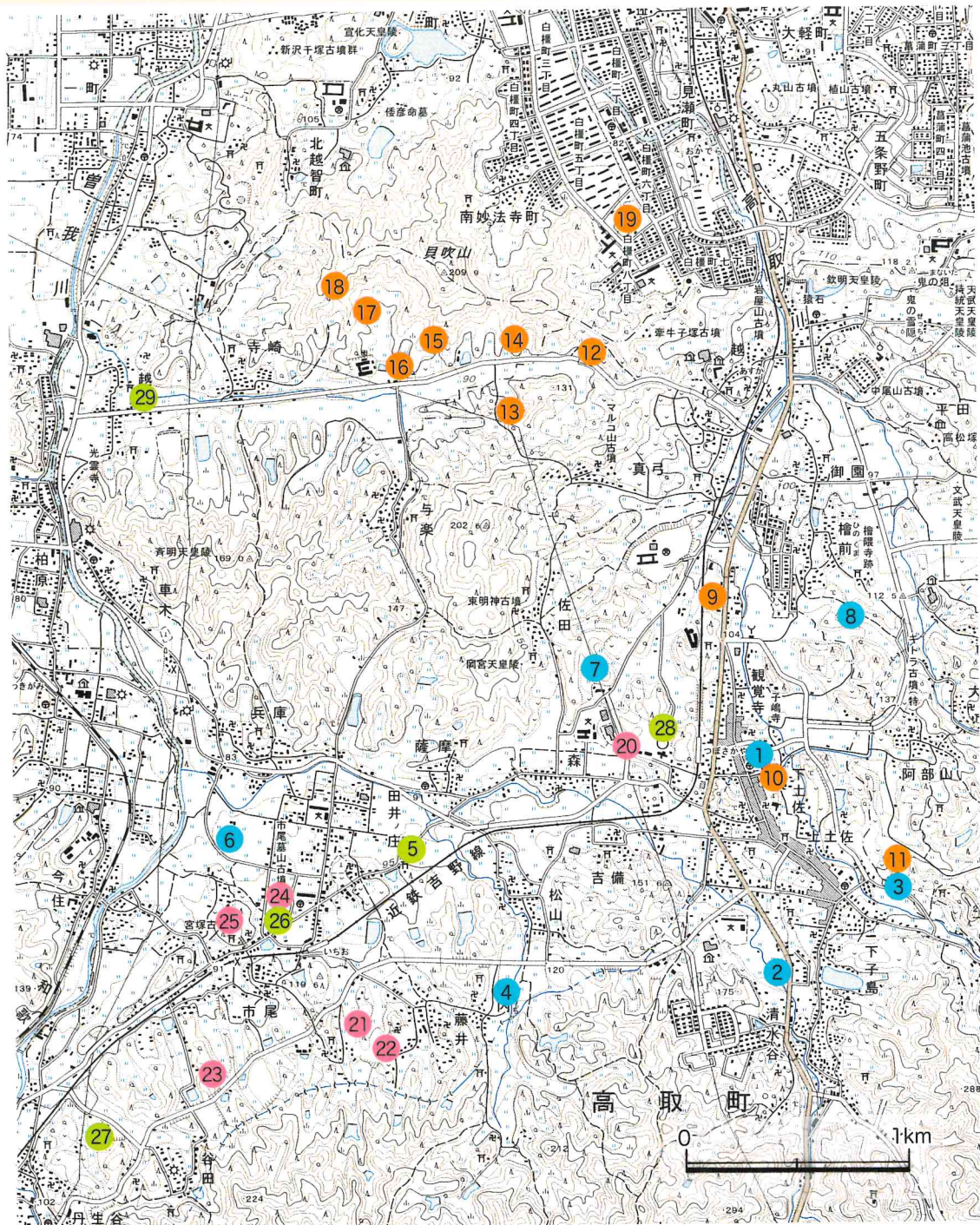
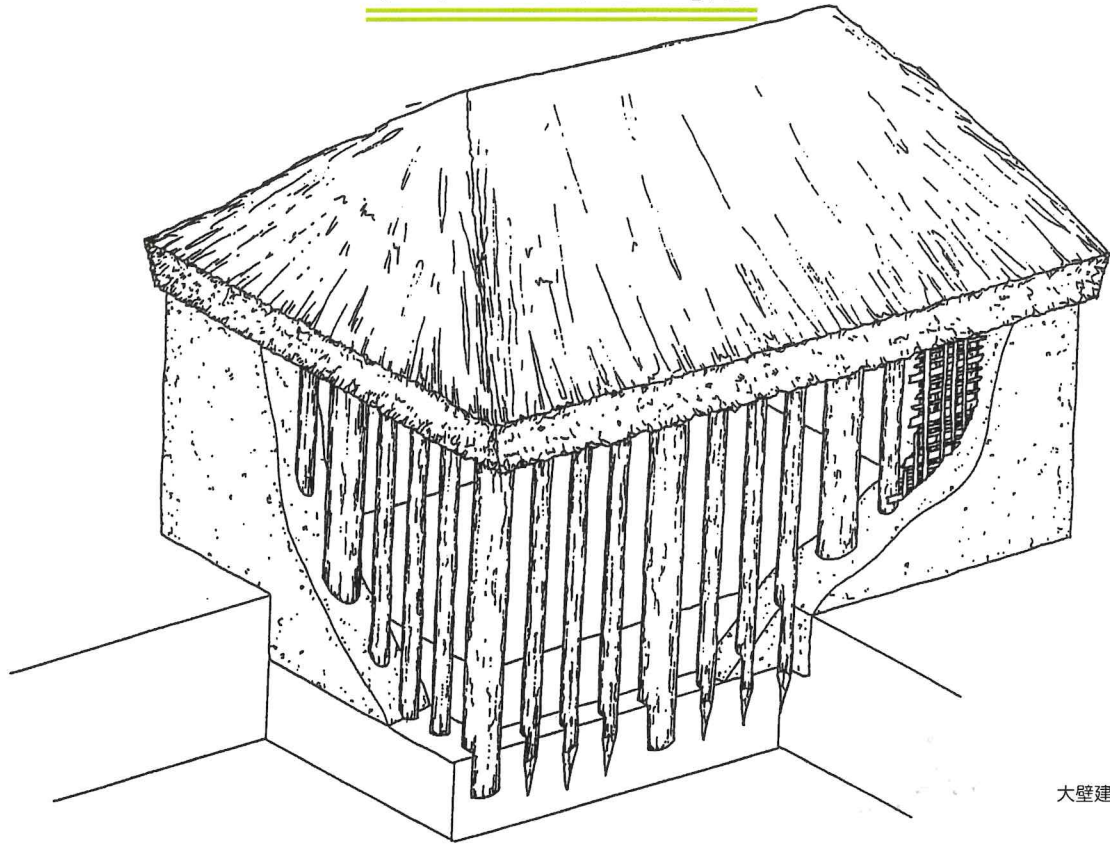


図1 高取町と周辺の遺跡

- | | | | |
|-------------------------|--------------------------|-----------------------|------------------------|
| かんがくじ
1 観覚寺遺跡 | しみずたに
2 清水谷ナルミ遺跡 | ほうち
3 ホラント遺跡 | ほうち
4 羽内遺跡 |
| さつま
5 薩摩遺跡 | いちお
6 市尾遺跡(カンデン地区) | もり たに
7 森カシ谷遺跡 | ひのくま
8 檜前遺跡 |
| さかのやま
9 坂ノ山4号墳 | いなむらやま
10 稲村山古墳 | あべやま
11 安部山カイワラ古墳群 | まゆみかんすづか
12 真弓籬子塚古墳 |
| ようらく
13 スズミ1号墳 | ようらく
14 与楽ナシタニ古墳群 | おぎた
15 オギタ1号墳 | 16 カンジョ古墳 |
| ようらくかんすづか
17 与楽籬子塚古墳 | てらさきしらかべつか
18 寺崎白壁塚古墳 | ぬまやま
19 沼山古墳 | 20 鳥ヶ峰1号墳 |
| ふじい
21 藤井イノラク1号墳 | 22 イノラク12・16号墳 | やたふかたに
23 谷田深谷2号墳 | いちお
24 市尾墓山古墳 |
| みやづか
25 宮塚古墳 | いちお
26 市尾遺跡 | 27 タニグチ1号墳 | むかいやま
28 向山1号墳 |
| おち
29 越智遺跡 | | | |

(水色は大壁建物が確認された遺跡、橙色は被葬者が渡来人と考えられる古墳、桃色は渡来系遺物が出土した主な古墳、緑色は今回の展示で注目される遺跡。)

おお かわ 大壁建物



大壁建物イメージ

とらいじん 渡来人とともにやってきた建築技術に大壁建物があります。大壁建物は方形に溝を掘削し、溝内に立てた柱を土砂などで覆い被せて壁を構築します。内面の柱は隠れて見えず、分厚い壁が屋根を支えていたと考えられ、現在で言えば土蔵のような建物です。発掘調査ではこれ以上はわかりませんが、大壁建物が奈良時代以降に見られなくなったのは日本の風土に合わなくなったのか、帰化した渡来人が故地のシンボリックな建物にこだわらなくなり、日本に同化してしまったのでしょうか。

高取町では大壁建物は6遺跡から20棟以上が検出されています。最近では近隣の明日香村檜前遺跡からも報告されています。図1(水色)の地点は大壁建物が検出された遺跡で、これらが集中する東西3^{キロ}南北2^{キロ}の範囲が古墳時代の檜隈地域と考えられます。

最初に検出された大壁建物は平成13年の清水谷ナルミ遺跡の調査です。調査区から重複した壁溝が何本も検出されましたが、大壁建物は一辺が7mから13.5m規模の3棟が復元でき、1棟からは床下暖房のオンドルが検出されました。出土した土器などから建物は5世紀後半から6世紀に建てられ、土師器平底鉢や甑などの韓式系土器が出土しています。

その後、大壁建物は観音寺・森カシ谷・羽内・薩摩・市尾の遺跡から検出されています。



清水谷ナルミ遺跡

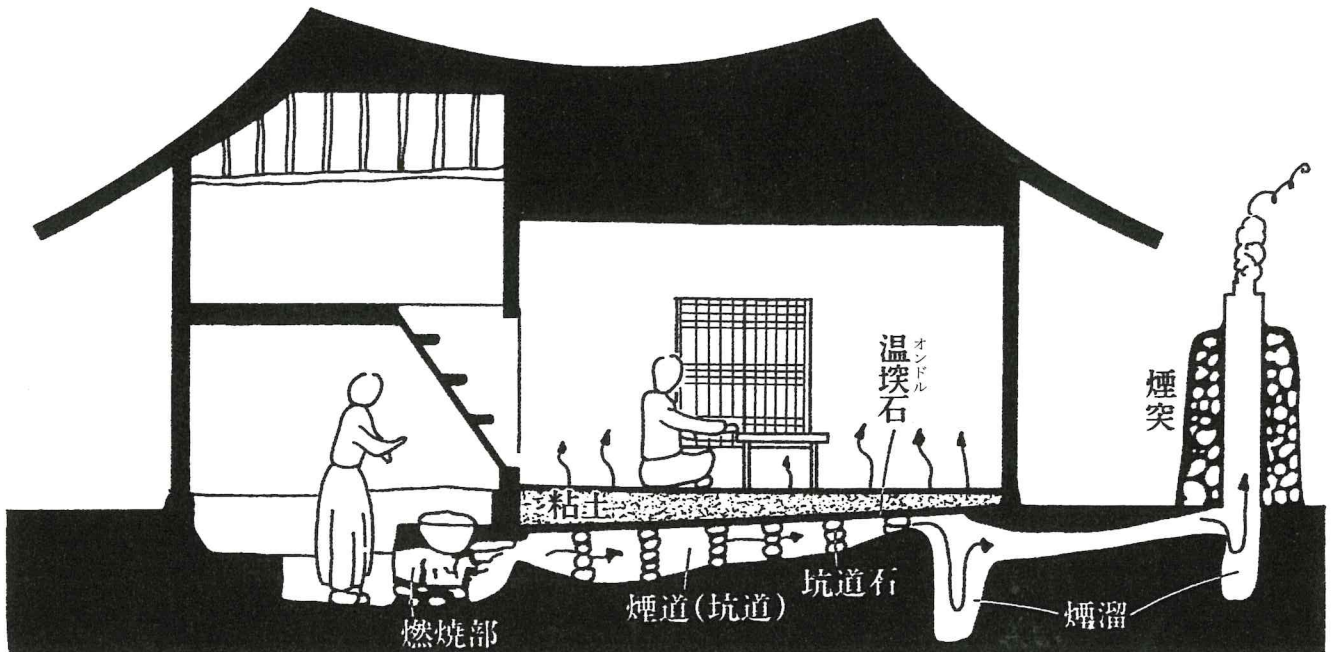


薩摩遺跡(上空から)



市尾遺跡

オンドル



近年のオンドル 「渤海文化より」

大壁建物の下部にオンドルが備わったものが検出されています。現代の床暖房であるオンドルは、床下の半地下に竈を設置して薪を燃やし煙道や煙溜りに煙を循環させて、煙からの熱を充満させることによって床下から暖をとる仕組みになっており、韓半島や中国東北部では近年まで使われていたようです。

高取町の古代オンドル遺構は清水谷ナルミ遺跡・観覚寺遺跡・森カシ谷遺跡で検出されています。建物遺構の下層に焼土や炭片が混じった土が堆積するし字形の掘り込みが共通して見られ、焚口、燃烧部、煙道、煙溜り、煙出しが確認されました。また観覚寺遺跡では石組で構築されたものもありました。これらのオンドルは煙道を板などで仕切って暖気を床下に溜め込む蓄熱式と考えられます。焚口は強い火を受け、煙出しまで緩やかな傾斜をもっています。冷めた煙は煙道を伝って煙出しから排出されます。オンドルを伴う建物は5世紀後半から7世紀前半まで継続され大壁建物とともになくなりました。



観覚寺遺跡オンドル(6次)



オンドル焚口(清水谷ナルミ遺跡)



石組オンドル(観覚寺遺跡4次)

高取町の弥生時代

高取町では、縄文時代後期・晩期の土器は採集されていますが、縄文時代以前の遺構は見つかっていません。市尾遺跡や薩摩遺跡からは、弥生時代の水田跡や溝などが見つかっています。国史跡 市尾墓山古墳南側に市尾遺跡があります。2002年の調査で、幅6m以上、深さ2mの東西方向の大溝が検出されました。溝断面の形態はV字形になっています。溝内から、多くの弥生時代後期の土器が出土しました。溝の北側は、粘性の強い砂質土が堆積し、砂質土を取り除くと3方向に畦状の高まりをもつ南北2.2m、東西4m以上を測る平坦面が検出されました。この遺構は状況から、小区画水田と考えられています。調査当時は、奈良県内で弥生時代の水田跡の検出例はありませんでした。市尾墓山古墳の墳丘盛土や外堤下層には、弥生時代後期の土器や石器が含まれています。

薩摩遺跡から方形周溝墓が見つかっています。埋葬施設は既に削平され、区画溝のみ検出されていますが、溝幅は約50cmを測り、溝内からミニチュアを含め多くの土器が出土しました。土器の時期は弥生時代後期と考えられています。これら最近の調査から、今まで不明であった高取町の弥生時代の姿が徐々に解明されつつあります。



市尾遺跡の水田跡



薩摩遺跡の方形周溝墓

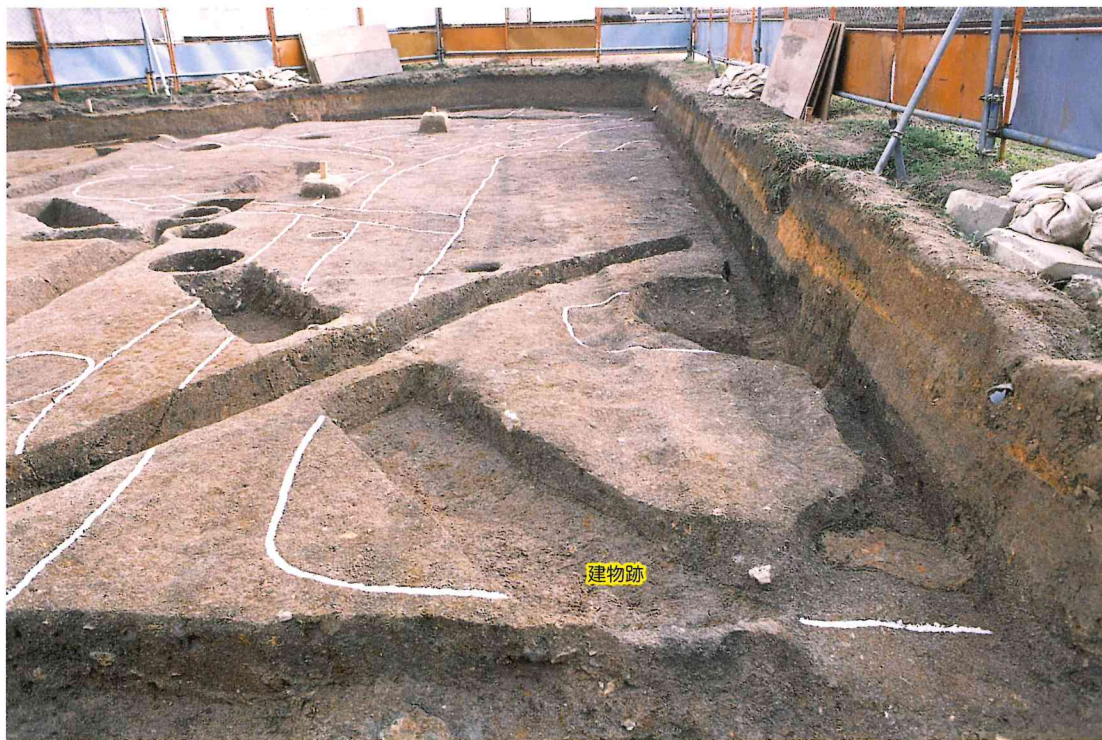


方形周溝墓遺物出土状況

さつ ま たてあな どうこう 薩摩遺跡の 竪穴建物と 土 壙

初期大和政権があった頃の古墳時代初頭、薩摩遺跡第9次調査から検出された建物跡と土壙が、この時期のもので、建物跡は部分的ですが、南北8.4mを測る竪穴建物の一部で、調査区の西端で東西2mだけ検出されました。建物内部は、約40cm落ち込み、周囲には周壁溝と呼ばれる幅20cmの溝が巡って、建物の床面は平坦で、屋根を支える柱穴が検出されました。建物は焼失したのか、床面から炭化した木片が見られました。

土壙は、竪穴建物の北東約8mに位置します。直径1.8mを測る楕円形で、底部まで深さ1mを測ります。断面の形態は掘鉢状です。土壙から、壺・甕・高坏・鉢など多くの土器が出土しました。土器の他に石製品、種子、土玉が含まれます。遺構の形態および湧水の状況から土壙は、井戸跡と考えられます。また、竪穴建物から東へ約3m地点の土壙から鏡を模したと考えられる土製品が出土しています。



竪穴建物跡 検出状況



土器出土状況



土壙底部

高取町の前期古墳と出土遺物

高取町に約800基の古墳が確認されていますが、ほとんどが丘陵から派生する尾根に位置する、直径約10～20m規模の群集墳と呼ばれるものです。その中には、今から1700年前の西暦300年代に造られた前期古墳が、僅かに含まれ、その一つに谷田タニグチ1号墳があります。

タニグチ1号墳は、丘陵尾根の先端部分に位置する直径20m、高さ2mを測る円墳です。埋葬施設の粘土槨内や木棺の痕跡から、二神四獣鏡・筒型銅器・方形板皮綴短甲をはじめ武具や武器、農工具など多くの副葬品が出土しました。古墳は4世紀後半頃の築造と考えられています。

観覚寺の丘陵上の先端に位置する向山1号墳は、直径20m、高さ2mを測る円墳です。木棺直葬の埋葬施設から、方格規矩鏡・四獣鏡・鉄刀・鉄鏃・刀子・鉈・管玉・ガラス小玉・白玉など多くの遺物が出土しています。古墳は4世紀末から5世紀初頭頃の築造と考えられます。

越智遺跡の中世大溝内から石釧が2点出土しています。石釧は、緑色凝灰岩製で古墳時代前期の腕輪と考えられています。また、遺物包含層から古墳時代前期ごろの土器も出土しました。古墳時代前期の墳墓か集落が存在するのか、今後、調査の課題になります。



向山1号墳 埋葬施設



向山1号墳 鏡出土状況



越智遺跡 石釧出土状況

かんがくじとりがみね 観覚寺鳥ヶ峰 1号墳

高取町大字観覚寺にある鳥ヶ峰古墳群は高取町役場の西側丘陵上に立地した4基からなる古墳群です。鳥ヶ峰1号墳は、丘陵の最も高い標高122mに立地した直径19m高さ1.5mを測る円墳で、埋葬施設である木棺直葬^{じきそう}の痕跡が4ヶ所検出されました。東西方向に並列した第1埋葬施設と第2埋葬施設の2棺を切込んで第3埋葬施設があります。第3埋葬施設は長さ3.6m幅0.8mを測る割竹形木棺で大刀・鹿角装短刀^{ろっかく}・刀子^{とうす}・鉄斧^{てつぷ}・鉄鍬^{てつそく}などの鉄製品や胡籥^{ころう}、銀製耳環^{じかん}、碧玉製管玉^{へきぎよく}・銀製空玉^{うつろ}・水晶製切子玉・ガラス製丸玉・滑石製白玉などの玉類、須恵器などが出土しました。また墳丘には円筒埴輪・朝顔形埴輪・鳥形埴輪・石見型埴輪などが立てられ、墳丘裾には焼土^{しょうど}が検出されました。

1号墳は6世紀中頃の築造と考えられ豊富な副葬品を持つことから有力豪族が埋葬されたと考えられます。



1号墳全景(東から)



耳環・玉出土状況



墓埴内 須恵器出土状況

藤井イノヲク 16号墳

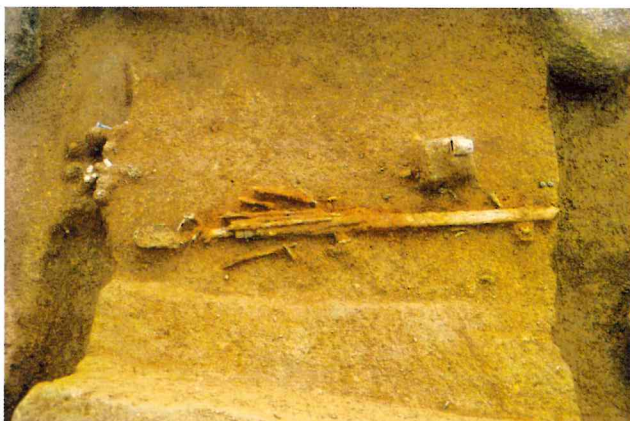
高取町大字藤井のイノヲク古墳群は丘陵尾根に20基からなる古墳時代後期の群集墳で、16号墳は尾根が東に張り出した標高150mに立地し、墳丘は直径16m高さ2mを測る円墳です。調査前から墳丘中央に大きな穴が開いていましたが、木棺直葬^{じきそう}の埋葬施設が2ヶ所検出されました。第1埋葬施設は盗掘でほとんどが掘り返されていましたが、東側に並列する一回り小さい第2埋葬施設は未盗掘^{とうくつ}で検出されました。長さ3.8m幅1.4mの墓壇を2段に掘り、底部に人頭大の石を6個並べ棺台としています。棺台から長さ2.4m幅0.7mを測る木棺が推側されます。

木棺痕跡から銀装の円頭大刀・鉄鏃などの鉄製品、碧玉製管玉・銀製空玉・水晶製切子玉・琥珀製棗玉・ガラス小玉などの玉類、須恵器・土師器などの土器が出土しました。

16号墳は出土遺物などから6世紀後半に築造されたと考えられます。



16号墳 第2埋葬施設全景(東から)



円頭大刀出土状況



須恵器出土状況

ようらくかんすづか 与楽罐子塚古墳

高取町大字与楽に所在する与楽罐子塚古墳は、墳丘は後世に削平を受けていますが復元すると直径28m高さ9mを測る古墳時代後期の円墳です。墳丘南側の横穴式石室は以前から開口しており、玄室の形状は石を7～8段積んだ側石の四方が途中から持ち送られ、玄室の幅と比較して床面から天井までが高くドーム型を呈しています。石室玄室の長さ4.2m幅3m高さ4.4m羨道の長さ5.4m幅1.4m高さ1.8mを測る全長9.6mの右片袖の横穴式石室です。羨道には礫を1.2m積上げた閉塞石が残存し、その南側には幅1.2mの墓道が検出されました。この墓道は古墳築造時の作業用通路と考えられ墳丘裾の溝へ続いています。

石室から鉄製の轡・杏葉・鐙・雲珠・辻金具・鞍縁金具などの馬具、鉄製釣針・刀子、銀製耳環・指輪・ガラス小玉などの装身具、須恵器・土師器の土器に竈・甑・鍋などのミニチュア炊飯具が含まれています。

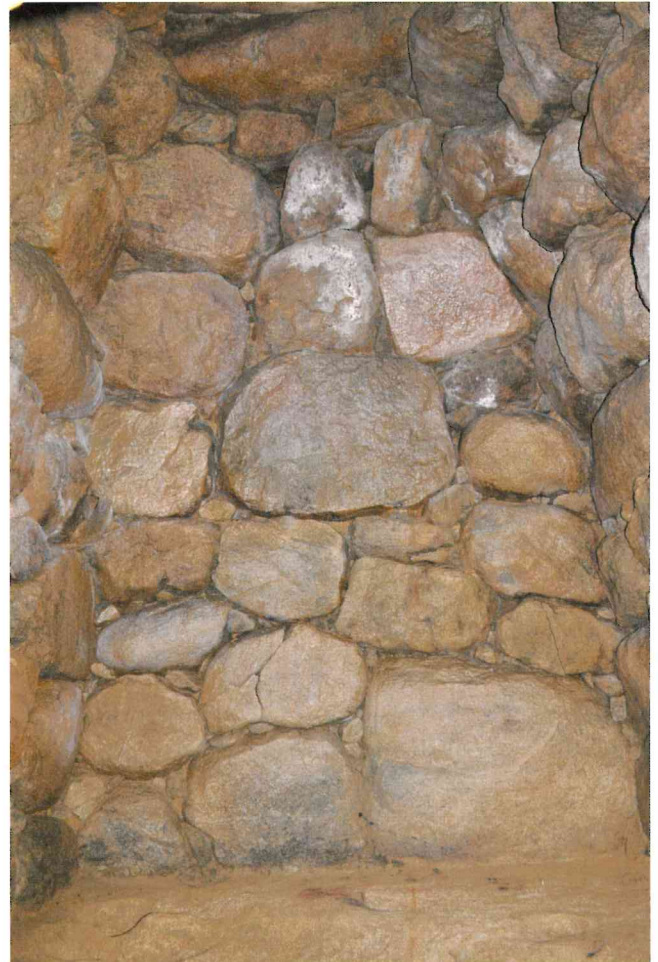
古墳の築造は6世紀後半で石室の構造や副葬品などから渡来系氏族東漢氏の盟主墳と考えられます。



墳丘全景(南東から)

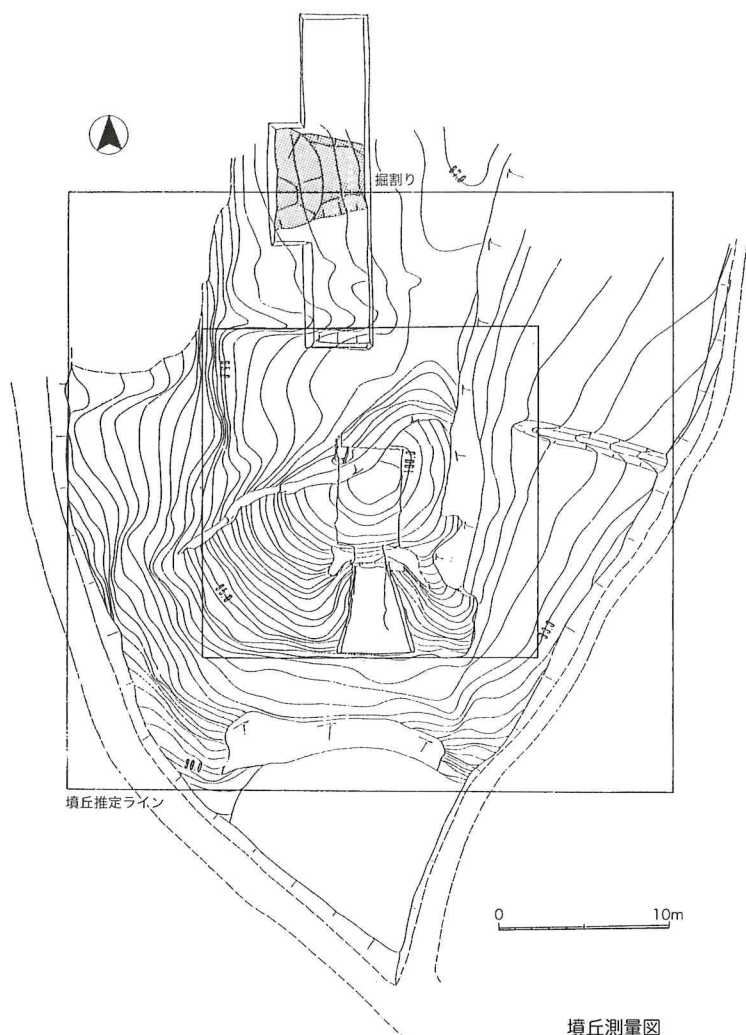


墓道



石室奥壁

ようらく 与楽カンジョ古墳



墳丘測量図

カンジョ古墳は、墳丘が著しく削平されていますが一辺36m高さ11mを測る二段築成の方墳と考えられています。また墳丘背面の北側には幅5m深さ0.5mの掘割があります。

南側に開口する横穴式石室は玄室幅3.7m長さ6m高さ5.3mを測り、床面から天井までの高さが極端に高い特徴を持っています。羨道の長さ5.8mとあわせると全長11.8mの石室は両袖式で羨道の先端付近には閉塞石が伴っています。

石室内の大部分が盗掘などにより攪乱されていましたが床面は礫敷きで、奥壁や側壁に沿っては一回り小さい礫敷の排水溝があります。また漆喰で固められた棺台も検出されました。

石室から耳環・指輪・ミニチュア土器の破片などが出土しています。

カンジョ古墳の築造は石室などの年代から6世紀末～7世紀初め頃と考えられます。



墳丘(西側から)



掘割



閉塞石

てらさきしらかべづか 寺崎白壁塚古墳



墳丘（西側から）

寺崎白壁塚古墳は与楽鑿子塚古墳の北西 200m 地点にあり、貝吹山から派生した尾根の標高 142m の斜面に立地した山寄せの古墳です。

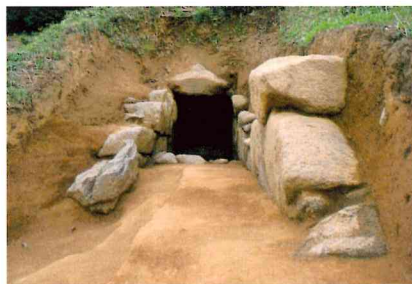
墳丘は 30m 規模の方台形を呈し、南側は二段築成で高さ 9m 北側は 4m を測ります。墳丘背面にはコ字形の幅 7m 深さ 2m の掘割が廻り、南側には壇状の平坦面（テラス）が付きます。

埋葬施設は横口式石槨で内法は幅 1.1m 長さ 2.2m 高さ 0.9m を測ります。石槨前面の前室と羨道を合わせた全長は 11m です。石槨は閃緑岩（飛鳥石）の巨石を組み合わせて構成され、前室の床面には榛原石が敷かれていたようです。

石室から土師器甕・鉄釘・ミニチュア土器などが出土しました。古墳の築造は 7 世紀前半と考えられます。また墳裾にある白壁山 2 号墳の掘割から出土した須恵器壺の内面に車輪文が施されています。車輪文は渡来系遺物と考えられ、被葬者像を考える資料になります。



（南側から）



石室前面



横口式石槨

国指定史跡 いち お はか やま 市尾墓山古墳

高取町市尾に所在する市尾墓山古墳は、墳丘長約70m、高さ10mを測る、2段築成の前方後円墳です。周溝と外堤を合わせた全長は100mの規模になります。後円部上段の南側に開口する石室があり、玄室の長さ5.9m、幅2.6m、高さ3mを測り片袖式で、長さ3.6m、幅1.8mの羨道と合わせると、全長9.5mの横穴式石室です。石室は比較的小型の石材を、8～10段を持ち送りながら積み上げて壁面を構築し、天井石を5石架けています。玄室内に、巨大な割り抜きの上山の凝灰岩製家形石棺が据えられ、石棺は長さ2.7m、幅1.3m、高さ1.4mを測り、全面に赤色顔料が塗布されています。

墳丘整備に伴う調査が、2004～2006年に実施され、墳丘上段の平坦面に埴輪列が検出され、周溝から鳥・石見型・笠形の木製品などが出土しています。墓山古墳の築造は、6世紀前半頃に、市尾周辺に勢力をもった豪族、巨勢氏の首長墓と考えられています。



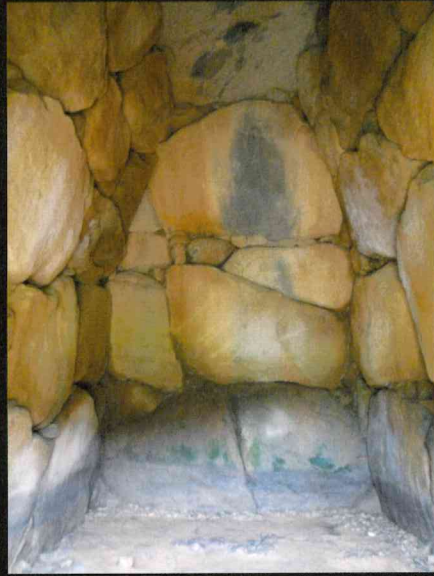
市尾墓山古墳 石棺



石見型木製品 出土状況



鳥形木製品 出土状況



与楽カンジョ古墳 石室奥壁

高取町教育委員会